

MONOTSUBUKURI

ものづくり大学通信 No.4



01 ものづくり大学 10年の歩み 1

02 ものづくり大学 10年の歩み 2



03 ものづくり大学 10年の歩み 3

04 連載・研究紹介

05 連載・ものづくり考



06 連載・ものづくり考

07 トピックス

08 学生・卒業生の



09 ものつくりインフォメーション



〈巻頭言〉

ものづくり大学は、多数の皆様のご支援を賜り今年で開学10年を迎えることができました。開学以来、キャンパスの整備、大学院の設置および海外の大学との協定締結など研究・教育環境は拡充しつつあります。こうした中で、学協会や技能分野などの多方面における教員および学生の活躍は目覚ましく、卒業生も6期・1,600名を数えるまでになり、製造業および建設業を

じめとした各界で広く活躍しているところです。

ここでは、開学10年の節目にあたって、ものづくり大学のこれまでの軌跡を「ものづくり大学の10年の歩み」と題して、大学の沿革と教員、在学生および卒業生の活躍を俯瞰してみました。今後も“ものづくり魂”を胸に大きく飛躍していきたいと意を新たにしています。



ものづくり大学の「これまで」と「これから」



学長 神本武征

この10年のあゆみを見るように、最初の5年間に建物の整備と同時に事務系の組織が充実し、さらに2005年度に大学院が設置されて、大学としての基本的な形が整った。2006年以降になると諸外国の大学との協定、国内高校との教育連携など外部との連携が積極的に進められた。また建設学科の地域貢献と製造学科の産学協同研究も大いに進展した。さらに次ページに示されるように学生諸君の各技能競技大会やコンテストにおける活躍が顕著となっている。

これからは従来の路線をさらに前進させることを基本としつつ「ものづくり教育の拠点を目指す」大学として、さらに独自の教育モデルを構築するとともに学生諸君の学外での活躍をバックアップする体制を強化したい。

関係各位のご指導とご鞭撻をお願いする次第である。



理事長 石岡慎太郎

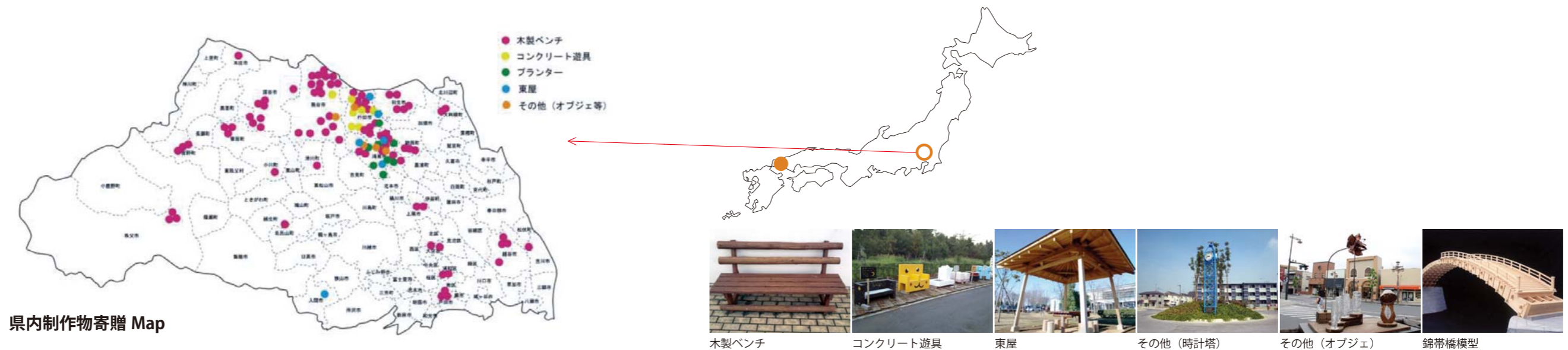
過去10年を振り返ってみて、一番印象深いことは学生諸君の活躍である。例えばNHKロボコンでは、07年の準優勝、学生フォーミュラでは09、10年の日本自動車工業会会長賞の連続受賞、若年者ものづくり競技大会では08年の橋本さんの金メダル（建築大工）、10年の渡辺さんの銀メダル（木材加工）、技能五輪国内大会では09年のOG外山さんの金メダル（家具）、10年の新里君の銅メダル（とび）、地域貢献分野では08、09年の振り込め詐欺防止装置の製作、09、10年の行田市総合福祉会館の中庭改修工事。

これらは技能と技術それに社会貢献を重視する等の本学独自の基本理念に基づく教育が成果を上げはじめたものといえよう。

今後10年を展望すれば、グローバルな競争が進展する一方、国内に労働力不足が生じよう。これに対処し国民生活の向上を図るためには、科学技術と技能の振興が最も大事である。このために本学は多くの人の理解を得て入学者の確保に努め、基本理念に定める技能と技術、社会貢献、独創性、国際性等を重視した教育を推進していかなければならない。

ものづくり大学10年の歩み 2

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006
大学の沿革	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回学園祭開催 ● 情報センター設置 ● ものづくり研究 ● 図書情報センター設置 ● 特別公開講座（西澤潤一氏）開催 ● 特別公開講座（瀬戸内寂庵氏）開催 ● 特別公開講座（永六輔氏）開催 ● 第1回ものづくり大学入学式を挙げる ● ものづくり大学開学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央棟竣工 ● 第2回学園祭（碧蓮祭）開催 ● 特別公開講座（梅原猛氏）開催 ● 特別公開講座（大塚初重氏）開催 ● 特別公開講座（野田一夫氏）開催 ● ふれあいルーム設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別公開講座（丹保憲仁氏）開催 ● 大田、川口セライトオフィス開設 ● ものづくり研究情報センター 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第一連絡橋 竣工 ● 第1回ものづくり大学卒業式を挙げる ● 特別公開講座（三浦雄一郎氏）開催 ● Technology and Education) と協定締結 ● 韓国技術教育大学 (Korea University of 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別公開講座（宮川泰夫氏）開催 ● ものづくり大学大学院開学 	<ul style="list-style-type: none"> ● バス待合所開所 ● 特別公開講座（吉川英治氏）開催 ● 特別公開講座（蜷川幸雄氏）開催 ● North Bangkok) と協定締結 ● (King Mongkut's Institute of Technology ● King's Mongkut's Institute of Technology ● キングモンクット工科大学 
教員・卒業生・在校生の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (製造技能工芸学科Fゼミ2001~2007) ◆ 第1回（自作艇）カヌー競漕大会 開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論文賞受賞（中田善久専任講師） ■ 社日本コンクリート工学協会 <ul style="list-style-type: none"> ◆ エコランカー大会出場 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 春岡幼稚園壁画制作 ◆ 人力ボートレース大会初出場 ◆ エコランカー大会出場 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 弓道場建設（卒業制作） ■ 学生研究奨励賞受賞（昇愛華） ■ 日本建築仕上学会 ■ (古屋正人、星野公亮、郷拓郎) ■ 埼玉県知事より成績優秀者表彰 ■ 技能検定建築大工2級 	<ul style="list-style-type: none"> ■ (内海範一、丸山大祐、小田新二) ■ 立体部門金賞受賞 ■ 「第2回コンクリートアートミュージアム ■ 日本コンクリート工学協会主催 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建築大工敢闘賞受賞（後藤保樹） ■ 第2回若年者ものづくり競技大会 ■ (田島宏晃、古屋正人) ■ 建築大工敢闘賞受賞 ■ 第44回技能五輪全国大会 
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ TOKYO DESIGNER'S WEEK 初出展(2005~) ◆ コンテスト優勝 ◆ ルーフゴールドハーグマシ ◆ NHK大学ロボコン出場 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コンテスト優勝 ◆ ルーフゴールドハーグマシ ◆ 学生作品の部金賞受賞 ◆ 第17回優秀板金製品技能フェア ◆ NHK大学ロボコン初出場 ◆ 特別賞 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全日本学生フォーミュラ大会初出場 ◆ エコランカー大会出場 			



年度	2007	2008	2009	2010
大学の沿革	<ul style="list-style-type: none"> ●第一連絡橋 竣工 ●全国産業教育フェア全国大会 埼玉会場 ●千葉県工業系高大連携協定に加盟 ●埼玉県立熊谷高等技術専門学校と教育連携協定を締結 ●埼玉県立久喜工業高等学校と教育連携協定を締結 ●特別公開講座（澄川喜一氏）開催 ●特別公開講座（三浦雄一郎氏）開催 ●泰田工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology) と協定締結 	<ul style="list-style-type: none"> ●多目的広場（たぐみの心）竣工 ●特別公開講座（椎橋章夫氏）開催 ●特別公開講座（矢内理絵子氏）開催 ●東京都立工業高等学校と教育連携協定を締結 ●NSTDA (National Science and Technology Development) と技術交流に関する覚書き締結 ●と交換留学に関する覚書き締結 ●泰田工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology) 	<ul style="list-style-type: none"> ●への学生就職支援 ●「わが国経済を支えるものづくり中堅・中小企業」学生支援推進プログラム採択 ●浮橋 竣工 ●特別公開講座（吉村作治氏）開催 ●特別公開講座（丸山晃氏）開催 ●3県立高等学校との教育連携に関する協定を締結 ●ものづくり大学及び大東文化大学と鴻巣市内就職支援本部を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●埼玉県立小鹿野高等学校と教育連携協定を締結 ●「ものづくりへのコミュニケーション力の育成」大学生の就業力育成支援事業採択 ●埼玉県立進修館高等学校と教育連携協定を締結 ●埼玉県立熊谷工業高等学校と教育連携協定を締結 ●埼玉県立寄居城北高等学校と教育連携協定を締結 ●大学紀要第1号を発行 ●学習支援室を設置 ●製造技能工芸学科 ●「学校法人ものづくり大学」に改称 ●「学校法人国際技能工芸機構」を
教員・卒業生・在校生の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ■銅賞受賞（古屋正人） ■建築大工敢闘賞受賞（田島宏晃） ■第45回技能五輪全国大会（鈴木大介） ■日本建築士上学会優秀修士論文賞受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ■（橋本紗希） ■建築大工金メダル、厚生労働大臣賞受賞 ■第3回若年者ものづくり競技大会 ■家具敢闘賞受賞（外山紗江） ■第46回技能五輪全国大会 ■優秀講演賞受賞（森田鉄也） ■日本建築学会関東支部研究発表会 ■埼玉県知事賞受賞（田島宏晃） ■第11回建設埼玉組管内訓練校競技大会 	<ul style="list-style-type: none"> ■成績優秀者表彰（野沢周平） ■埼玉県知事より ■技能検定家具2級 ■金賞受賞（外山紗江） ■家具敢闘賞受賞（野沢周平） ■第47回技能五輪全国大会 ■審査員特別賞受賞（栗原由貴） ■「第9回卒業設計コンクール」 ■（社）埼玉建築設計監視協会主催 ■米子市長賞・全建連委員長賞受賞（田島宏晃） ■金賞・厚生労働大臣賞・鳥取県知事賞 ■第25回全国青年技能競技大会 	<ul style="list-style-type: none"> ■ら感謝状（深井研究室） ■設事業に協力し、加西市、北条鉄道か ■兵庫県加西市北条鉄道田原駅待合所建 ■感謝状（横山研究室） ■中庭改修事業に協力し、行田市長から ■行田市総合福祉施設「やすらぎの里」とび銅賞（新里靖） ■建築大工敢闘賞受賞（橋本紗希、上田晃弘） ■第48回技能五輪全国大会 ■振興功績者表彰（赤松教授） ■（社）日本家具工業連合会・技能競技大会 ■銅賞受賞（榎本将紀） ■木材加工銀賞受賞（渡辺薫恵） ■第5回若年者ものづくり競技大会
	<ul style="list-style-type: none"> ◆（デザイン部門2位） ◆全日本学生フォーミュラ大会出場 ◆準優勝・特別賞 ◆NHK大学ロボコン出場 	<ul style="list-style-type: none"> ◆（製造技能工芸学科Fゼミ2008） ◆第1回MONOからマシコンテスト 開催 ◆埼玉県知事賞受賞（大竹雄介） ◆第4回懸賞付学生論文 ◆NPO法人埼玉SOHO起業家協議会主催 ◆NHK大学ロボコン出場 特別賞 	<ul style="list-style-type: none"> ◆2位入賞2期卒業生チーム ◆RED BULL BOX CART RACE ◆日本自動車工業会会長賞受賞 ◆（完走…総合15位） ◆全日本学生フォーミュラ大会出場 ◆埼玉県警より感謝状 ◆振り込め詐欺防止装置 ◆NHK大学ロボコン出場 ◆優秀賞受賞「オトクツ」（菅谷研究室） ◆全国手作り楽器アイデアコンテスト09 	<ul style="list-style-type: none"> ◆（鈴鹿サーキット）のデモ走行に参加 ◆がフォーミュラニッポン最終戦 ◆学生フォーミュラマシン「MF-005d」 ◆日本自動車工業会会長賞受賞 ◆（完走…総合18位） ◆全日本学生フォーミュラ大会出場 ◆NHK大学ロボコン出場 ◆埼玉県警より感謝状 ◆振り込め詐欺防止シミュレーションソフト



ロゴタイプ・ロゴマークについて
ものづくり大学10周年記念事業の一環として、ロゴマークおよびロゴタイプを新しく制定致しました。趣旨としては、本学の独自性を明確に打ち出し、その存在を積極的にアピールする手段として右記のとおり募集し決定しました。

コンセプト：「ものづくり大学のイメージ化」
応募資格：日本国内在住者
募集期間：平成21年7月1日～平成21年9月30日
募集内容：ロゴタイプ（ものづくり大学の文字を図案化したもの）
ロゴマーク（印や記号、絵画的に図案化したもの）
募集結果
ロゴマーク：工藤 和久氏（青森県在住/自営業）
ロゴタイプ：塩崎 アユミ氏（大阪府在住/グラフィックデザイナー）

勤続10年非常勤講師一覧（建設学科）

浅見 武（木造基礎および実習）	加藤 博（建設足場基礎および実習等）	月岡 正夫（測量基礎および実習等）
石河 公一（左官・タイル基礎および実習等）	加藤 昌司（木造総合および実習）	西村 修（左官・タイル基礎および実習等）
伊藤 計（木造基礎および実習等）	小島 正美（木造基礎および実習）	福島 正雄（木造基礎および実習等）
上原 勝利（木造基礎および実習）	小林 靖史（木造基礎および実習）	堀 竹市（左官・タイル基礎および実習等）
生川 朋（木造基礎および実習）	嶋田 一夫（木造総合および実習）	本郷 誠二（木造基礎および実習等）
生川 勝久（木造基礎および実習等）	須々木昭一（木造基礎および実習）	宮島 秀夫（鋼構造物仕上および実習等）
大窪 力司（建設足場基礎および実習等）	鈴木 光（左官・タイル基礎および実習等）	宮前 守（木造基礎および実習）
小澤 幸男（木造基礎および実習等）	関根 隆明（木造基礎および実習）	村上 幸一（RC型枠施工基礎および実習等）
片山 豊廣（建設足場基礎および実習）	関根 正行（木造基礎および実習）	八木沢康衛（左官・タイル基礎および実習等）
加藤 重朗（木造総合および実習）	高橋 辰雄（溶接基礎および実習）	山本 義雄（溶接基礎および実習）

ものづくり大学 ヴィエトナム・フエ王宮 隆徳殿修復プロジェクト

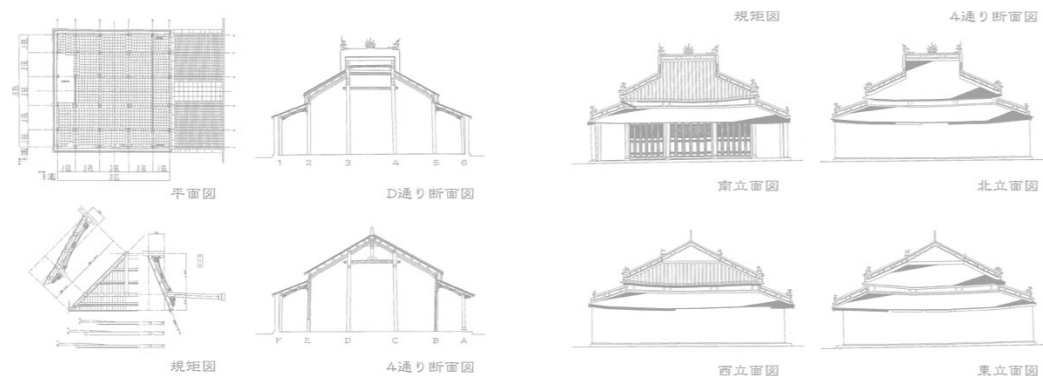
建設技能工芸学科 教授 白井 裕泰 (しらい・ひろやす)

ものづくり大学・白井裕泰研究室（建築遺産研究室）では、早稲田大学（研究代表者 中川武教授）と連携して、ヴィエトナム・フエ王宮遺跡調査に参加している。この研究は、ユネスコ世界遺産に登録されている皇城と帝廟を中心とした「フエの建造物群」の全体像を把握することを目的としており、その成果を踏まえて、現在、早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所（所長中川武教授）が中心となって、フエ王宮勤政殿（きんせいでん）の復原*プロジェクトを推進している。

2005年度に海外学術調査研究助成金（基盤A）「阮朝・太廟・隆徳殿の修復計画—ヴィエトナムの文化遺産（建造物）の保存に関する技術移転の確立と国際協力」を獲得し、ものづくり大学主導の元、皇城内で最古の建物・隆徳殿（りゅうとくでん）の修復プロジェクトを立ち上げた。修復工事は2009年度に竣工し、地元の組織・フエ遺跡保存センターと連携して工事を行ったこの実践的活動を通して、日本の木造建築物修復技術をヴィエトナムの人々に知ってもらおう良い機会となった。

*脚註：文化財用語として、古い形に戻す修復の場合は原状に復するという意味で「復原」の文字を用いる。復原に対して、失われた建物の元の姿を推察し新たに建設する場合などは「復元」を用いる。

隆徳殿



隆徳殿修理工事竣工



【略歴】

1950年愛知県生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科で建築史を専攻。博士課程を満期退学後、東京都の文化財修理事業に8年間従事。1990年博士論文『重塔の設計技術に関する研究』をまとめ、早稲田大学から学位を授与されたのを契機に株式会社空間文化研究所を設立。その後共栄学園短期大学助教授を経て、ものづくり大学教授。大学では最高の木造建築職人を育てている。また現在ベトナム・フエ王宮・昭敬殿の復元を指導している。

●2005年度活動

隆徳殿の修復を前提として以下の実験および調査が行われた。東京大学坂本研究室によって隆徳殿の1/4模型を使って載荷実験、1/1の接合部模型を使って強度実験が行われた。また隆徳殿の現状の構造的耐力を明らかにするために、(1) 水平力を加えて柱の変位を測定する (2) 鉛直荷重を加えて柱の変位を測定する (3) 補強材を除いた状態で常時微動を測定するなどの構造調査を行った。さらに建築技法および細部意匠の関連調査として、(4) 肇廟の平面および柱内転びに関する実測調査 (5) 肇廟の細部意匠に関する調査などを行った。

●2006年度活動

1. 隆徳殿の素屋根および西側部材保存小屋を建設した。
2. 隆徳殿の北西角から北に6m、西に0.3mの位置で地下17.2mまでボーリングし、地質調査を行った。
3. 素屋根の南側に部材保存小屋、その南側に工作小屋、さらにその南側に工員休憩所を建設した。また工員休憩所の南西側に工事監理事務所を建設した。
4. 部材調査を行った。部材調査は基壇上で行い、調査内容は部材寸法の実測、部材の新旧・刻書・補修必要の有無の確認、含水率の測定などであった。この部材調査によって隆徳殿修復工事における取替材・補修材の材積を定めることができる。
5. 隆徳殿の現状瓦の強度試験を奈良県窯業試験場で行い、瓦強度の強化について検討を行った。
6. フエ王宮建築の常時微動測定を行い、剛性評価の比較検討を行った。
7. 関連調査として、肇祖廟の実測調査を行い、平面・断面・立面図を作成した。
8. 隆徳殿の1/4復元模型を作製した。

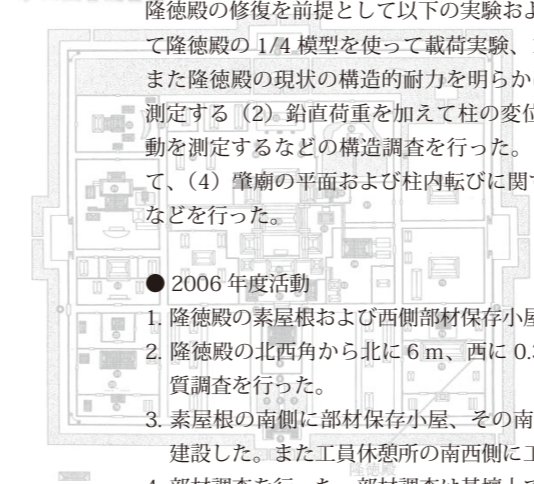
●2007年度活動

1. 2007年5月～7月に隆徳殿の復元設計を検討し、7月15日～17日にフエ遺跡保存センターと事前の打合せを行った。
2. 隆徳殿の基壇調査、原寸図の作成、人工木材を使用した柱の修理、ケオ・トエン木鼻の拓本採取、番付および仕口の補充調査を行った。また関連調査として、肇祖廟の補充調査、昭敬殿の基壇調査、王宮内の家具調査を行った。原寸図の作成によって、今後の復元修理の基準を設定することができた。また人工木材を使用した部材修理によって、これまで取り替えざるを得なかった部材を再用することが可能になった。この試みはヴィエトナムの文化財建造物修理において、歴史に残る画期的な出来事であった。
3. 臨時調査として、人工木材によるケオの修理を行い、フエ遺跡保存センターと第6次調査の事前打合せを行った。
4. 隆徳殿の基壇修理、柱・ケオ・頭貫の修理が行われ、ほぼ修理を完了した。また王宮内にある瓦の焼き窯内部の温度を計測した結果、窯内部の最高温度は960度であることがわかった。今回の基壇修理において、内側礎石の下に、新たに80cm×80cm×75cmの煉瓦積み独立基礎を設置した。これは修理前の礎石が80cm厚の基壇砂地盤に置かれていた構造的弱点を改良したものである。

●2008年度活動

臨時調査を行い、柱・ケオ・頭貫・飛貫の修理の最終確認を行った。調査の内容は①柱・ケオ・頭貫・飛貫による軸部の組立、②母屋桁・母屋受けの修理、③部材の修理箇所の確認、④土公祠の実測調査、⑤ケオの柱元部の調査、⑥肇祖廟の家具調査などであった。垂木の修理を行った。第8次調査は2月24日(火)から3月24日(火)まで行われ、その内容は母屋桁・垂木の取付および造作(欄間・建具)の取付であった。

フエ王宮配置



修理前隆徳殿① 修理前隆徳殿②



2006 隆徳殿の素屋根



2007 隆徳殿のケオ修理



2007 隆徳殿の貫修理 2007 隆徳殿の原寸図



2008 隆徳殿の母屋取付 2008 隆徳殿の垂木取付

ものづくり大学における教育

製造技能工芸学科 教授 櫻井 大八郎 (さくらい・だいはちろう)



【略歴】

1945年：三重県伊勢市に生まれる。
工学博士、技術士（金属）、日本将棋連盟アマ七段
1962年、1963年：NHK放送合唱コンクール県代表（主将）
1964年：TIAF 英語ドラマコンクール一位
1968年：東京大学工学部冶金学科卒業
1968年：旧八幡製鉄(株)（現新日本製鐵(株)）入社
日本鑄鍛鋼(株)、三菱マテリアル(株)プレジデント補佐、(株)ラドテック常務、(株)セルナック取締役
2003年～ 現職、工業材料とその一次成形、サステナビリティ技術特論、ビジネスマネジメント等鑄造に拘らず、プラント・環境・経営等幅広く担当
専門技術分野／鑄造、材料、廃棄物再利用
モットー／「できるまでやれば必ずできる。」

「善・美・真」を追求するものづくり教育

当大学は技能工芸学（ものづくり学）を教育・研究するために2001年に設立された。この技能工芸学は全く新しい概念であり、従来の工学・芸術・社会学等の枠組みとは異なる。従来の学問体系に馴染んできた我々技術者には非常に分かり難い概念である。梅原先生等諸先輩方の著作を拝見すると、「もの」をつくる上で必要となる「何か」をすべて集中的に体系化したものらしい。

私の専門である鑄造は、約6000年前から始まっており、科学以前から技術は存在した！奈良の大仏が鑄造されたのは約1250年前の話。経験と勘だけでも世界新は作れる（写真1）。逆に、経験と勘がなければ世界新は作れない。自然界（人間も自然界の一員）の「現象を見抜く力」こそが、ものづくりの原点、科学は自然現象を分かりやすく表現する道具である。

時として、人間は作ってはならないものを作ってしまう、やってはならないことをやってしまう。ものを作る人には「こころ」の強さが必要だ。「三つ子の魂、百まで」、18歳では遅すぎるかもしれないが、善悪の判断力の基本は身につけさせる必要がある。この中から作るべきもの、作ってはならないものが浮かんでくる。作るべきものが決まらなければ、技術も技能も科学もお金も何の役にも立たない。

人間の思考力・論理力は50歳を過ぎてもまだ成長すると言われている。反面、音感・運動・芸術等の人間の感覚は、若い時でないと磨けない。論理性が必要となる分野は後回しにしても、「感覚」は若い時期に研ぎ澄ましておく必要がある。昔から「名人」といわれる人々は12歳くらいからその道に入り、十数年で一人前になっていった。

心＝善悪＝経営＝哲学、感覚＝技能＝芸術、論理＝技術＝科学と近似的に捉え、当大学では、まずは心の教育（善）、ついで感覚教育（美）、最後に論理教育（真）としていくのが、人間の成長過程にあっており、ものづくり教育としてふさわしい（図1）。

私の鑄造の授業は、鑄造の基本を簡単に説明した後、学生たちで作りたいものを選び、その模型、砂型を作り、融かした金属を鑄造し、鑄仕上げまでを、アルミニウム合金、ブロンズ、鑄鉄等で行い、鑄造という現象と鑄造理論との対比を行なっている（写真2,3）。この中で、自然と3種類の金属の特性をも体感している。なお、鑄造は3年生だが、2年生では粘土成形、ガラス成形等で作るものを決める心を学び、4年生及び大学院では解析と現象の比較を行ない論理教育をしている。

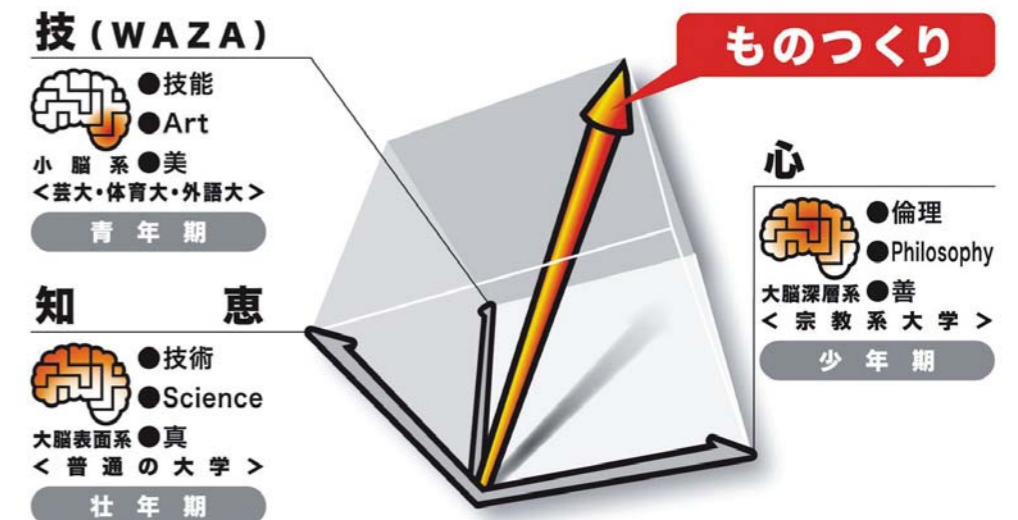


図1 ものづくり教育のイメージ



10年の歩み…伝統の技の継承

建設技能工芸学科 特別客員教授 生川 朋（おいかわ・あきら）

ものづくり大学にお世話になって10年。私に与えられた職務は自分の特徴を生かした伝統技能の指導教育だった。指導する先生方が理解し、全うする事で学生の持っている才能を引き出し発揮させる事だと思っている。

1. 指導者としての技能の心得

小生、30数年建築大工の中央検定委員を務め全国を駆け巡り、後世に受け継がれるような課題の作成、技能の指導、その中から自分の技も磨き憶えていく、誰でも人間は長所、短所がある。人との出会いによって新しい一歩が始まる。だから常に学ぶ事の喜びを感じる。

それは日頃より心がけ、見つけ出せる特技とセンスではないか。それによって大きな差が生まれる。先人の名人と言われた技師、その人達が造り上げた社寺、仏閣、住宅等のリフォーム、何か理解しにくい寸法が多い。それらを解読する能力はまさに「温故知新」である。小生平成9年に卓越技能者「現代の名工」の栄を受けた時、その名に恥じない技能、技術と指導性を再確認、優れた技能者を見つけ育てる事が任務と思った。

それには、技能検定、実技試験の場所がチャンス、会場に入る時の態度、礼儀、工具の扱い、それらをきちんとできる受験者は成績も良い。資格だけで人間を評価出来ない。その時の体調によっても左右される。それを眼力で見抜く。それには自分自身も日々修業していなければならない。

若い技能士を育成するには、さまざまな経験と日々の努力で時代の変化に対応することである。

2. 中央検定・技能競技委員への道のり

これを期に小生の生き様を紹介してみよう。

検定委員としての問題作成はデスクに座ったままではできない。全国統一問題だけに心身共に神経を使うと同時に、カメラを持って全国を飛び回る。これはと思ったらシャッターを切る。忘れないうちに図面化させる。その繰り返し。

日本の技能は世界でもトップクラスだ。特に国際大会の日本の課題はハイレベルなので解読出来ないと言われた時代もあった。今は少しランクが落ちているが何故か…。

技能大会の課題作りは、年末から正月に作成する為、私には元旦はなかった。正月2日に書初めをするくらいであった。30年以上もそんな生活が続いた。私は「さし金、規矩術」を自分の物にする為、寝ても覚めてもさし金とにらめっこ。日本の歴史は西洋と東洋の文化が入ってきているので、それらを学ぶ事は規矩術を学ぶ上で重要なことだ。将来のある若者に技を伝える事は楽しい。職業が違って「道は一つ」努力だけではだめ「独力」しなさい。その事で技能はついてくる。人生で同じ間違いは通用しないから、再スタートしーから出直した。私の頭には伝統技能を若者に引き継いでほしい強い思いがある。

3. トップリーダーとして技を磨き学ぶ

小生今年の4月より社団法人埼玉県技能士連合会の会長に就任した。建設関係は良いが、製造、洋裁、和裁、フラワー、料理等35団体あり、様々な出会いがあり新しい勉強が始まっている。他の職種も憶えていきたい。10月から11月にかけて大学の学園祭と技能まつりが併催される。各職の技能を見る事が出来る。学生にとって良い参考になる。また、大学側も優れた技能の多いイベントに参加し、良いPRになるはずだ。黄金文化を取り入れて作製した日本一のピラミッド型ひな壇（生川が設計、施工）、その他競技大会での作品展示も行う。学生には良い勉強の場となるだろう。



【略歴】

昭和48年～平成20年 中央技能検定委員
昭和44年～平成20年 埼玉県技能検定委員
昭和58年～平成21年 全国技能グランプリ競技委員
平成9年～平成20年 技能五輪全国大会競技委員
平成19年 技能五輪国際大会競技委員
平成21年～現在 埼玉県技能士連合会 会長
平成18年～現在 ものづくり大学特別客員教授

【表彰関係】

平成20年 円覚寺より感謝状
平成21年 神社本廳統理より感謝状
平成19年 厚生労働大臣より検定功労賞
平成13年 埼玉県神社庁より褒賞
平成12年 黄綬褒章
平成9年 労働大臣卓越技能者（現代の名工）
平成元年 中央検定委員として中央職業能力開発協会より感謝状
昭和63年 埼玉県検定委員として中央職業能力開発協会より感謝状
昭和55年 中央検定委員として中央職業能力開発協会より感謝状

4. 私が携わった10年間の学生の作品

建築にも流派がある。学生にものづくりの技を指導して行く上で重要な事は流派を統一し、指導しなければならない。それを考慮すると講師を引きうけてくれる団体が限られる。学生のインターンシップを受け入れられる事も必要とされる。卒業迄にある程度の技能を身に付けておかないと、卒業制作に迷いが生じる。少しでも多くの学生にその地域に名前を残させてやりたい。それは公共物に携わるのも一つの考え方で学校のPRも出来る。私が携わった卒業制作に触れてみる。

- さいたま市別所沼公園内「ヒヤシンスハウス」……70年建替
 - 鴻巣中央公民館内「折りたたみ型テーブル」……家具関係
 - 鴻巣市福祉センター談話室「折りたたみ式テーブルと棚」……家具関係
 - 鴻巣吹上本町、せせらぎ公園「水車小屋と水車」……大工関係
 - 鴻巣吹上本町、せせらぎ公園「あずまや（扇たる本）」……大工関係
 - 同上 「太鼓橋」……大工関係
 - 鴻巣市常光公民館内「案内板及び遊技施設」……大工関係
 - 「鴻巣みこし」の復元（3年がかり）……大工関係
 - 鴻巣駅前広湯「藤棚、渡り橋、ベンチ」……大工関係
 - 行田市総合福祉センター「やすらぎ」（2年がかり）……大工、鉄筋、コンクリート関係
 - 熊谷市「鉄骨あずまや」……大工、鉄筋、鉄骨、コンクリート関係
 - 鴻巣鴻神社「鴻の宮氷川神社復元」……大工関係
- 約170年前の建物の為、細工に神経を使い床下にもぐり埃だらけになりながら設計、施工を見事に完成させた。女子学生1人で技を發揮。

5. 技能を身につける女子学生の4年間

入学時はごく平凡な女子学生で作業を見ても何となく不器用だった。だが建築大工としてのセンスが少し見られた。何をやらせても「のろいカメ」だった。大学代表での若年ものづくり競技大会では仕事は上手いが時間が掛かってしまった。だが見事に金メダルを受賞。県代表で五輪全国大会に出場が決まった。私は技を磨き努力をしてみると言った。だが残念な結果に終わり、彼女にとって力不足と技能の難しさを知らされた大会だったと思う。大会終了後「自分がみじめです」と彼女は言った。彼女は、原寸図と墨付けが上手い。加工には時間が掛かるがその辺をカバー出来ればと氷川神社の復元に挑戦させた。

8月中頃から昨年の経験を忘れずーから出直して、全国大会に臨む。同じミスをしたら大工技能は失格だ。夏休みが勝負だ。結果は本人の努力でついてくる。技への挑戦がはじまる。彼女を信じている。

今年度は、来年の国際大会の日本代表を決定するため、高度な技能（規矩術、原寸図）が要求されるだけに、いかに精密に作り上げるか（時間内）、参加者84名の中で競った敢闘賞（10位）の受賞である。



実習風景①



実習風景②



実習風景③

行田市総合福祉会館やすらぎの里中庭改修整備事業

建設技能工芸学科 准教授 横山 晋一（よこやま・しんいち）



やすらぎの里中庭

やすらぎの里東側マウンド竣工

- 1) 事業名称：行田市総合福祉会館やすらぎの里中庭改修整備事業
- 2) 場所：行田市大字酒巻 1731-1
- 3) 事業主：行田市
- 4) 設計監理：ものづくり大学 横山研究室
- 5) 施工：ものづくり大学 横山研究室
- 6) 事業期間：第1期（2009年9月～2009年11月）【3ヶ月】
第2期（2010年4月～2010年6月）【3ヶ月】

7) 事業内容

この施設は行田中心市街地から北に5kmほど行った利根川堤防沿いの田園地帯に位置し、行田市が高齢化社会に対応した地域の福祉関連施設として1999年に設置したものである。鉄筋コンクリート造2階建ての施設中央には430㎡規模の中庭があるが、四周を壁で囲まれる閉塞感や休息する設えも無かったことから、施設利用者の殆どが足を踏み入れない負の空間となっていた。このため、創設10周年の節目を迎えるに当たり、リハビリ機能を備え、語らいと安らぎを齎す空間の再生を目指すことになった。

設計と施工を特命で横山研究室が担当したが、機能回復訓練要素の研究を重ね、施設管理者と現場目線で議論した内容を設計に纏めた。設計内容と算出予算は行田市に承認され、2ヵ年度継続事業として整備が進められることになった。設置した構

築物は4施設であり、シンボルツリーとなる「もみの木」を中心に据えたサークルマウンドを始め、手摺高を変え、緩やかなうねり傾斜床のリハビリテーションコース、また、車椅子の幼児も遊べるサンドテーブル付き砂場と、地流水水場になる。主要構造は全て鉄筋コンクリート造としたが、形状全てを矩形とせず円形も採用し、造作に木造ベンチ、また、床材を天然石舗装とするなど設計を駆使して柔らかな空間創出を図った。もちろん、シンボルツリーが冬期にクリスマスツリーとなる効果は絶大であった。

現在、施設利用者が中庭で休息されるようになり、リハビリ効果の向上にも繋がっている。これにより、中庭は目論んだ機能回復訓練と安らぎの両面が賄える空間に生まれ変わることが適った。

兵庫県加西市北条鉄道田原駅待合所建設事業

建設技能工芸学科 教授 深井 和宏（ふかい・かずひろ）



田原駅待合所①

田原駅待合所②

田原駅待合所③

2010年7月28日、兵庫県加西市の北条鉄道田原駅待合所建設工事が、建設学科有志の学生による設計施工で竣工しました。

加西市および北条鉄道（第3セクター、市長が社長を兼務）と実施方法について協議を重ねました。サークル「建築研究会」（部長：上田、顧問：深井）を立ち上げ、受け皿としました。

今回の設計施工での建設にかかわったメンバーは以下の3人です。

上田 晃弘 小澤 良洋 小林 優平

建て方工事以降、以下の二人が一部工事を応援しました。

橋本 紗希 奥山 智也

本年（2010年）春以降、上田、小澤、小林が、設計図、

模型を完成させ、北条鉄道側の了解を得ました。

その後、6、7月に上田君の実家に合宿をして、製材、すみつけ、加工、建て方、仕上げを行い、同時に、木製ベンチ、木製駅名表示看板を作成しました。昨年（2009年）9月に、本工事前の用材調達のため、加西市内山林オーナーと地元製材業者の協力を得て、ヒノキ間伐材の伐採を6人（岡部学も含む）で実施していました。

以上の貢献により、6人が加西市、北条鉄道より感謝状を頂きました。2010年（7/28）のNHKニュース（神戸放送局）でも取り上げられ、大阪朝日放送（ABCラジオ）にも登場しました。朝日新聞、神戸新聞、産経新聞、加西タイムス、広報かさいに記事が掲載されました。

学園祭 2010

学生課 課長 宮本 伸子（みやもと・のぶこ）

第10回の記念すべき「碧蓮祭」は、同時開催の「人づくり・ものづくりフェア埼玉2010」とともに、季節はずれの台風に見舞われるという記録すべき学園祭になってしまいました。

しかし、1日目の10月30日も、碧蓮祭の方はステージのコンサートを除いては場所を屋内に変更して、ほぼ予定通りの開催となりました。また2日目の31日は、実行委員の熱い思いが通じたのか、台風は足早に過ぎ去り、曇りではありましたが屋内外全てが開催でき、両日を合わせて公式発表約2万人の人出でにぎわいました。

今年の特徴の一つ目は、パフォーマンス in ものの。1日目の昼から体育館で行ったピンキッシュ・オンステージは、勝手に埼玉応援隊のひとつ、現代風にリメイクした童謡を歌うボーカル&ダンスユニットです。持ち歌の「ゆめみるイチゴ」を入れた楽しいステージで雨風の寒さを吹き飛ばしてくれました。2日目の赤萩一也

さんのピザをまわしながらの様々なパフォーマンスは、見物人が思わず引き込まれる見事なものでした。加えて、コバトン、フラベエ、コゼニチャンの3人？が登場し、子供たちと「ハイポーズ！」。そしてそれに刺激を受けたわが大学製造二期生の近藤（CANTO）さんの大道芸も、体育館の真ん中のミニステージでパルーン、中国コマ、皿回し&ジャグリングなど、子供たちも拍手喝采でした。

二つ目は大学近くからの色々な人、団体、お店などの参加です。いつものB級グルメのゼリーフライなどの食べ物などのお店の参加に加えて、株式会社ショーワさんからはF1レースで本当に使ったというショックアブソーバーという大切なものを、学生フォーミュラの応援にということで貸していただき展示しました。それに、あの削ろう会の方たちも参加してくださり、それはそれは薄い（それでもまだ本大会よりは厚いのだそうですが）、ミクロン単位のカンナの削

りかけを見せていただきました。

三つ目は世代の幅。子供たちはいつも碧蓮祭の花形ですが、今年もマンガカーレース、竹とんぼ、折り紙建築、ガラスアート、ロケット教室、左官教室、コンクリート人形、木工、金工等々に目を耀かせて参加してくれました。一方で、ステージでは若者に負けじと4人の年齢合計？歳のおじさんバンドが、往年のヒット曲を次々と鳴らし、思わず「ここは何処？」と思われるタイムマシンなひと時もありました。そして、今年の「ものづくり大賞」を見事に勝ち得たのは、近くにお住まいの木工大好きな伯父様で、出品された木の材料でグラデーションをつけた引き出しには、だれもが文句なしにトップの太鼓判を押したのだそうです。もちろん、3回の受賞者の中で最高齢でした。

さて、あなたはどの催しが面白かったですか？NPO ひこうせんのオリジナルアートは、中央棟の3階にあったのですが、見損なっていませんか？では、来年をまたお楽しみに。



削ろう会

ピンキッシュ

マンガカーレース



コゼニチャン

ミニSL機関車

パフォーマンス CANTOの大道芸

● TDW に参加してみた

製造技能工芸学科 3年
平林 馨 (ひらばやし・かおる)

国内最大級のデザインイベントである東京デザイナーズウィーク (TDW) に参加することで、日本人のみならずアジア、アメリカ、ヨーロッパと、たくさんの方々で触れ合える。

企業の方や、他大学との交流も深めることができ、非常にアクティブで国際的な場である。

自分たちでデザインし、自分たちで作った作品を出展することで、そのようなたくさんのお客様に見ていただくことができる。

ここで得られるお客様の反応は非常に素直で純粋なものであり、中には欲しいと言って下さる方もいる。

そんな感動をやりがいとし、私たちは活動する。

“より多くのお客様に感動してもらいたい”
“お金を払ってでもきてよかったと思ってもらう”
2010年度はこれらを目標としてかかげ、楽しんで活動し、楽しめるモノ作りをしてきた。



デザインをよく知らない人たちが集まってデザインをする。美術大学や、デザインを専攻としている学校にどのようにして勝負するのか。



それはものづくり大学らしさを追及し、手作りのすばらしさをアピールすることである。

このプロジェクトは製造学科の人であれば、建設学科の人もある。

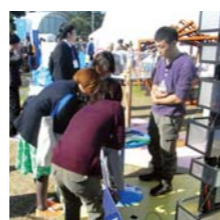
両学科で培った技術と、校内のありとあらゆる設備を駆使して作品をつくりあげる。

自分たちが作ろうとデザインしたモノを、仲間たちと協力しあって作り上げたときの達成感と感動は計り知れない。

これもひとつのやりがいであり、プロジェクトの醍醐味である。

たくさんの仲間が集うことで、今まで自分には無かった知識を習得できる場にもなる。

作品作りを通して技術の向上や、将来やりたいことが見えてくることもある。



デザインイベントだからといって堅苦しいことは無く、ただ純粋にモノ作りを楽しめるプロジェクトである。

お客様に喜んでもらったときの感動を、たくさん後輩たちにもあじわってもらいたい。



● 卒業生に聞く



久保田 英樹 (くぼた・ひでき)

学 科：建設技能工芸学科
卒 業 年：2008年(4期生)
出身研究室：澤本研究室
現在の所属：日本大学大学院
理工学研究科
研究生

■ 現在どんな仕事をしていますか？(会社のPR、求人などを含めて)
現在は、日本大学大学院の研究生として大学に通っています。主に、研究室の仕事や後輩の指導にあたっています。大学院入学当初は、戸惑うことばかりでしたが、大学を移って3年目になり、ようやく慣れてきました。一番の悩みの種は、構造力学でした。難解な数式が黒板を埋め尽くす講義には、正直、嫌気がさしましたが、なんとか単位を修得でき、無事、大学院を修了することができました。

■ 大学生生活の思い出、印象に残っていることを教えてください。(サークル、学祭、実習、講義、卒研など)

大学生活で印象に残っていることは、とにかく実験を多くやったことです。縁があって2年次の後半から、ある研究室に出入りさせてもらっていたのですが、その研究室は実験量が多いことで有名な研究室で、長期休暇の期間はほぼ毎日実験をおこなっていました。また、学外で研究成果を発表させていただく機会をいただいたのですが、その論文を仕上げるために、徹夜したことも多かったです。

■ 現在の趣味など、仕事以外で楽しんでおられることはありますか？
趣味は読書です。最近、あまり読む時間がないのですが、暇を見つけては読んでいます。最近、楽しんでいることは、ダム見学です。ダムは、あの重量感がたまらないですね。

■ ものづくり大学で学んだことで役立っていることは？
実習を通して、現業の基礎的なことを学べたことです。他の大学では、講義のみの知識でしかないものが、ものづくり大学では、実際に触れることができるのでイメージしやすかったです。実務寄りの知識は他の院生には、負けていないと思っています(そう思いたいです)。また、授業外でも研究室の活動を通して、人との接し方や忍耐力などもついたと思います。

■ 今後どのような大学になって欲しいと思いますか？
ものづくり大学の特色は、実習中心のカリキュラムにあると思います。実習のできる設備や環境も整っているので、この先も実習に重点をおいてほしいです。また、大学にある設備を有効活用して、ものづくり大学ならではの卒論を作成して欲しいと思います。

● 2010年度 ものづくり大学同窓会の活動

(2010年11月5日現在)

月 日	活動項目	概 要	参加人数または配布数
4月24日	第1回理事会開催	今年度の活動方針に関する打合せ	
5月4日	行田市・祭り「親子ものづくり教室」	テーマ：道具箱型筆箱の製作、左官技法を用いた装飾の製作	100名
5月14日	オープンキャンパス配布用グッズの寄附	道具箱型筆箱の提供	30セット
7月	2010年度パンフレットの作成・発行	三つ折りパンフレット	
7月	行田市自治会製作協力	灯籠キットの製作	30セット
7月31日	行田市教育委員会主催「面白ものづくり教室1」	テーマ：道具箱型筆箱の作製	20名
8月7日	オープンキャンパス配布用グッズの提供	DVDエンドの提供	50セット
8月21日	行田市教育委員会主催「面白ものづくり教室2」	テーマ：左官技法を用いた作画	10名
9月23日	第2回理事会開催	総会開催に関する打合せ	
9月25日	オープンキャンパス配布用グッズの提供	サンドブラストによるエッジング加工したガラスコップおよび木製コースターの提供	50セット
10月29日	同窓会会報創刊号発行		200部
10月30日	総会、神谷聖志先生最終講義		総会：19名 最終講義：23名
10月31日	学園祭「親子ものづくり教室」	テーマ：左官技法を用いた作画および装飾、道具箱型筆箱	60名

〈同窓会からの募集告知〉

親子ものづくり教室の実施にあたり、製作指導して頂ける卒業生を募集しています。今年度は、4回実施しましたがいずれも大盛況でした。希望される方は、同窓会メール(dousoukai@iot.ac.jp)までご連絡下さい。



●ものづくり現場の課題を解決するための技術相談

ものづくり研究情報センター主幹 郡山 力郎（こおりやま・りきろう）

ものづくり研究情報センター（以下「センター」）は、産学官の連携事業に取り組んでいます。今回は、センターが窓口となって進めている技術相談について紹介します。

1. 相談の受入れ

企業には長年培った独自の技術力があります。近年の新素材の出現や新技術の発展によって、企業現場のものづくりのための加工や品質管理等が課題となっています。例えば、「新素材の溶接をどうするか」、「加工精度をさらに高めたい」、「製品のデザインを改良したい」、「新製法・新工法を考案したが、規格に合致しているか調べたいのにデータ取りの手段がない」など様々です。センターは、企業が苦慮しているこのような課題の相談を常時受付けています。

相談の依頼があると、センターは学内教員の専門性等を勘案し教員を選任してその内容を伝え、対応可能性を探ります。対応可能なら企業とセンターが窓口となって日程調整等を行い、企業側と教員とが面談し、技術的な検討に入ります。

2. 対応可能な分野

本学が対応可能な領域は、製造系では、先進加工、材料・設計、制御・メカトロニクス、計測・情報、生産・設備・マネージメント等の分野です。建設系では、建設・土木技術、木工技術関わる材料・施工・構造、木造建築・インテリア・エクステリア、計画・設計・歴史等の分野です。

学内教員が相談に応じられない場合でも、できるだけ別の解決方法を提示するようにしています。技術相談が単なる技術の検討のみに終わらせないで、企業と協力した研究活動に発展するようにしています。

3. 技術相談から研究活動への発展例

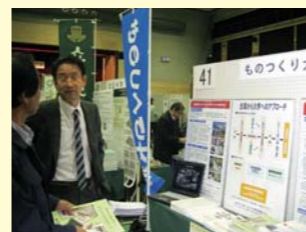
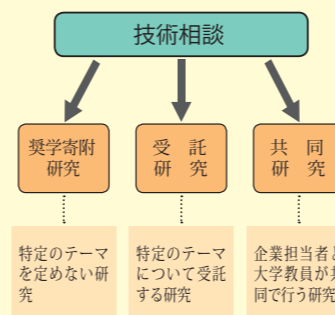
研究活動には奨学寄附研究、受託研究及び共同研究の3つがあります。奨学寄附研究へ繋がった例として、既存の壁を壊さず、その壁内に硬質発泡ウレタンを注入し断熱性能を向上させると共に、耐力壁とする研究開発があります。この成果は既存木造建築物の耐震性向上に期待されています。建設の小野准教授が担当しました。

受託研究へ繋がった例として、マンホール鉄蓋の設計解析ソフトウェアの開発があります。相談企業は「コスト削減に結びつく」と良好な結果に満足されました。製造の野村教授が担当しました。

また、共同研究の例として、埼玉県警と製造の松本研究室が行った「振り込め詐欺被害防止シミュレーション」ソフト開発があります。高齢者がゲーム感覚で楽しみながら詐欺防止を身につけようというものです。研究にはゼミ学生等9人が参加しました。完成したソフトは、現在県内の老人クラブや県警の防犯講習会等で活用されています。学生には県警本部長から感謝状が授与されました。

当センターでは、今後も、直接企業を訪問するなどして技術相談に対応していきます。どうぞ、気軽にご相談ください。

ものづくり研究情報センター TEL: 048-564-3880



「埼玉北部地域技術交流会」での技術相談



埼玉県警から感謝状を受けた「振り込め詐欺防止」ソフト開発メンバー

●ものづくり大学 10周年記念事業のご紹介

大学全体で以下の事業に取り組みます（一部実施済み）

- | | |
|---|---|
| ① 10周年記念式典及び記念シンポジウム開催
平成23年10月10日（月・祝）
ものづくり大学 体育館 | ⑤ 記念モニュメント制作
大きなからくり時計を製造、建設の学生が協力して制作予定。 |
| ② 第19回高校生ロボット相撲全国大会共催
平成23年11月予定
ものづくり大学 体育館 | ⑥ 新皆野橋屋外モニュメント制作 |
| ③ ホームカミングデー実施
卒業生がキャンパスに戻ってくる日を設けます。 | ⑦ ロゴマーク・ロゴタイプ新設（実施済み） |
| ④ 「10年のあゆみ」（仮題）発刊 | ⑧ 学科名称変更
製造技能工芸学科が製造学科に、建設技能工芸学科が建設学科に名称変更します。 |
| | ⑨ 10周年記念ものづくり大学生活支援奨学金 |



●就職センターの移設及び名称変更のお知らせ

就職センターを9月27日より、大学本部3階から大学本部1階学生ロビーへ移設しました。また、移設に伴い名称を就職センターからキャリアセンターに変更しました。

キャリアセンターでは、学生の就職活動を支援・サポートするのを最大の目的とし、各種情報・資料を取り揃えています。また、就職相談コーナーを設け、就職活動に対する疑問点や不安、悩みといった問題について随時、アドバイスをを行っています。2009年9月からはプロのキャリアカウンセラー2名による相談も行っています。



●2011年度（平成23年度）入試日程

種別	出願期間等(消印有効)	選考日	合格発表日	入学手続期間	
A〇入学試験(※)	(エントリー期間)	(最終面談期間)			
	第Ⅶ期	12月6日(月)～1月13日(木)	1月31日(月)～2月18日(金)	2月24日(木)	2月24日(木)～3月11日(金)
	第Ⅷ期	1月24日(月)～3月1日(火)	2月25日(金)～3月15日(火)	3月17日(木)	3月17日(木)～3月23日(水)
特待生入学試験	入試センター利用	1月4日(火)～1月28日(金)	—	2月5日(土)	2月5日(土)～2月15日(火)
	学力試験		2月2日(水)		
一般入学試験	A日程 学力試験	1月4日(火)～1月28日(金)	2月2日(水)	2月5日(土)	2月5日(土)～2月15日(火)
	B日程 学力試験	1月31日(月)～2月17日(木)	2月22日(火)	2月24日(木)	2月24日(木)～3月11日(金)
	ものづくり総合試験				
	C日程 プレゼンテーション・総合試験	2月21日(月)～3月17日(木)	3月23日(水)	3月25日(金)	3月25日(金)～3月30日(水)
入試センター利用試験	A日程	1月4日(火)～1月28日(金)	—	2月5日(土)	2月5日(土)～2月15日(火)
	B日程	1月31日(月)～2月17日(木)	—	2月24日(木)	2月24日(木)～3月11日(金)
	C日程	2月21日(月)～3月17日(木)	—	3月25日(金)	3月25日(金)～3月30日(水)
後継者・社会人、帰国子女、外国人留学生入学試験	A日程	11月1日(月)～11月15日(月)	11月20日(土)	11月25日(木)	11月25日(木)～12月9日(木)
	B日程	1月31日(月)～2月17日(木)	2月22日(火)	2月24日(木)	2月24日(木)～3月11日(金)

※A〇入学試験は、期に分かれています。A〇入学試験ガイドまたは大学ホームページでご確認ください。
 ■ 特待生は年間授業料全額(88万円)免除。入学後も最長4年間、授業料免除(毎年審査あり)
 ■ 授業料の4分割納入可能
 ■ 生活支援奨学金制度(30～60万円を20名程度に支給)あり
 ■ 自動車での通学可能(キャンパス内に駐車場有)

2011年オープンキャンパスは3/26(土)スタート!

2010年12月～2011年4月 Calendar

月	2010	2011
	12月	1月 2月 3月 4月
行事・式典など	17 特別公開講座(講師:和田 竜氏)	21-22 卒業研究・制作・設計発表会(建設) 5 卒業研究・制作・設計発表会(製造) 10 修士学位プロジェクト発表会
図書情報センター	延長	4 17
	短縮	24 27 4 18 11 1 5
	休館	28 3 14 2 14 31

通常/9:30～19:00 短縮/10:00～17:00 延長/9:30～19:00
 ※卒業生の返却期限日は2011年2月25日(金)となります。詳細は図書情報センターのホームページをご覧ください。

*各記事の詳細につきましては、ものづくり大学ホームページをご参照ください。
<http://www.iod.ac.jp/>

『ものづくり大学通信 No.4』
 発行日:2010年12月14日
 発行人:神本武征
 編集長:増淵文男
 デザイン:藤原成暁
 文芸監修:平谷雄二
 編集:ものづくり大学通信編集委員会



お問い合わせ先



〒361-0038 埼玉県行田市前谷 333 番地

TEL 048-564-3200

FAX 048-564-3201

E-Mail tsushin@iot.ac.jp

<http://www.iot.ac.jp/>